研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-141		17-321	慶應義塾大学　加藤眞三

題名（原題／訳）

Duration of therapy - Does it matter ?: A systematic review and meta-regression of the duration of psychosocial treatments for alcohol use disorder.
治療の期間は重要であるか？：アルコール使用障害のための心理社会的治療の継続の系統的レビューとメタ回帰

執筆者

Kramer Schmidt L, Bojesen AB, Nielsen AS, Andersen K.

掲載誌

J Subst Abuse Treat. 2018 Jan;84:57-67. doi: 10.1016/j.jsat.2017.11.002.

キーワード	PMID:
アルコール使用障害　治療期間　アルコール治療コース	29195594

要　旨

背景：アルコール使用障害（AUD）の治療の期間のための臨床ガイドラインの勧告は、コンセンサス決定に基づいている。実際は、我々はアルコール治療コースの最適治療持続期間を知らない。

方法：アルコール外来患者治療センターにおける心理社会的治療の無作為対照臨床試験の系統的再調査とメタ回帰をする。対象となる集団は AUD で苦しんでいる成人から構成され、少なくとも 2 つのセッションで、外来患者施設で治療を受けていた。メタ回帰分析は、研究の中での治療の継続期間と治療の結果で行われた。
治療結果は、飲酒をしない日の割合（PDA）、大量に飲んでいる日の割合（PHD）、断酒を継続した人の参加者のなかでの比率（ABS）と定義した。

結果：48 件の臨床研究で、8984 人の参加が対象となった。治療の予定の継続は
平均で 18（8-82）週であり、平均 14（2-36）セッションであった。実際に参加されたセッションは平均 9（1-26)セッションであった。

平均追跡期間：平均追跡期間は 43（8-104）週であり、臨床評価は 6（2-18）週間であった。予定された期間（週）も、セッションの長さも、週当たりのセッションの頻度も、実際に参加されたセッション数も、いずれも長期間のアルコール摂取の結果に関係していなかった。しかしながら、研究評価の頻度は、PDA と PHD と明らかに関係していた。

結論：外来患者における心理社会的治療の予定または実際の出席された継続期間は、長期のアルコール摂取の結果に影響を与えていなかった。研究評価法と、それに対応する研究プロジェクトは、アルコール摂取障害の心理社会的治療の研究で、結果に本来影響する可能性がある。